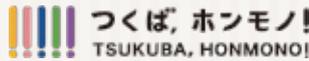




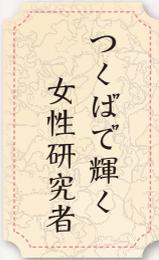
研究棟内のエビ飼育室で



国際農林水産業研究センター 水産領域 研究員

Kang Bong Jung 姜 奉廷 (カン・ボンチョン) さん

韓国・釜山生まれ。東義大(韓国)、同大学院で生物学を専攻後、岡山大学大学院理学部自然科学研究科で博士号(理学)取得。現在は国際農林水産業研究センターでエビ成熟メカニズムの基礎研究と成熟・産卵の新技術開発を行う。



国際色豊かな研究チーム

《国際連携の研究開発》
農林水産業の技術向上を目指し、国際的な研究活動を行う国際農林水産業研究センター(JIRCA)の水産領域でエビの種苗生産技術開発を研究。パナメイエビ卵黄形成抑制ホルモンノの生体内変動や成熟促進因子探索など生殖機能の基礎研究から、産卵促進の際に行う眼柄切除に頼らない新たな成熟・産卵促進技術の開発を行っている。エビなど甲殻類の生体は今なお未知の部分が多く、眼柄から分泌されるホルモンについてもまだまだ解明中です。動物保護の面からも

国際交流で挑む 水産資源の開発

エビに負担が掛からず、安心で安全な養殖技術が世界中で実現できるよう目指しています。同研究センターでは、カルシウムやマグネシウムなどの成分を加えた低塩分の養殖技法でモンゴルなど海のない国でもエビの養殖を実現するなど、エビの養殖技術開発による国際貢献が期待されている。

《好奇心と冒険心》

幼少から好奇心とチャレンジ精神が旺盛だった。高校卒業後、「将来スペシャリスト」として活躍したい」と東義大(韓国)に進学して生物学を専攻。解剖や生物の仕組みに興味を湧き、大学院では水



愛娘とのひととき

産研究の道へ。「大好きな実験が多く、結果もすぐに出る。水産生物の不思議な仕組みへの興味がどんどん深まりました」。13年前に岡山大学大学院の研究室へ留学生として来日し、分子生命科学を専攻。「以前から魚の卵黄タンパク質の研究をしていましたが、甲殻類はオスとメスが曖昧なところが興味深く、探究心をくすぐられました」。

《つくばの暮らし》

8年前に岡山からつくばに移住。5年前に結婚したIT企業勤務の夫、3歳の愛娘と家族3人で暮らしている。「つくばは外国人も多く、自然体で暮らせる環境が心地良いですね。街並みもきれいだし、ちよつと良い田舎っぺを感じる」と笑顔。現在は子育てのため遠出が難しく、週末は散歩やショッピングが中心。「子どもが成長したら、家族そろって大好きなドライブで温泉巡りを楽しみたいですな」。